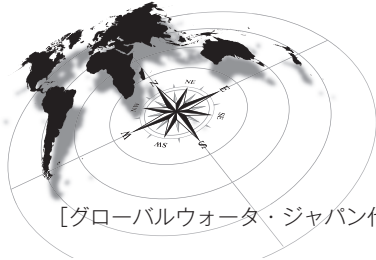




ダボス会議の主題は環境問題



〔グローバルウォーター・ジャパン代表 国連環境アドバイザー〕



吉村 和就

スイスのダボスで開催された世界経済フォーラム（WEF）が1月24日、4日間の日程を終えて閉幕した。主要テーマの気候変動問題では、米国トランプ大統領と各国要人や環境活動家との意見の食い違いが鮮明になり世界中のメディアが取り上げた。WEFが開幕前に公表した「グローバルリスク報告書」では、今後10年に起こりうる地球規模のリスクの上位5位まで、すべて環境に関わる項目であった。他の大きな話題は、資本主義の在り方で「米国が反対するデジタル課税の導入」であり、これは米国（自国第一主義）と欧州勢（多国間主義）のつばぜり合いであった。では今後起こりうる「グローバルリスク」を具体的（長期、短期）に見てみよう。

1. グローバルリスク報告書 ……長期リスク

長期のリスクとして、今後10年間で発生する可能性のあるグローバルリスクと、そのリスクが発生した場合の影響度について報告されている。

1) グローバルリスク発生の可能性項目

- ①財産やインフラの喪失……異常気象（洪水、暴風など）の頻発
- ②国や企業による気候変動緩和・適応策の失敗
- ③大規模な自然災害（地震、津波、

火山爆発、地磁気嵐など）の発生
④地上または海洋における大規模な生物多様性の喪失と生態系の崩壊

⑤原油流失や放射能汚染など人為的な環境犯罪、損害・災害などこのように、すべて環境関連であった。

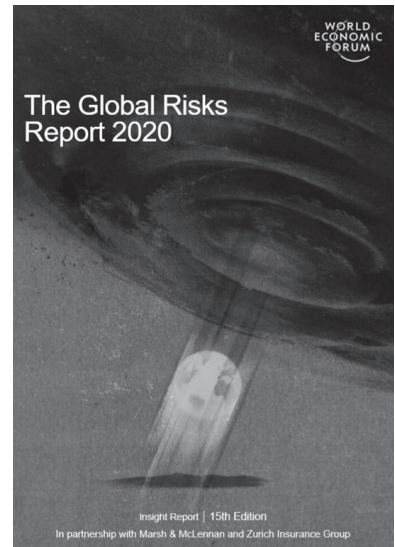
2) リスク発生した際の影響度が大きい上位5位は

- ①気候変動の緩和策・適応策の失敗
- ②大量破壊兵器
- ③大規模な生物多様性の喪失と生態系の崩壊
- ④異常気象（洪水、暴風など）
- ⑤水危機（人間の健康や経済活動に有害な影響をもたらす水の量的、あるいは質的な利用可能性の重大な減少を示す）

これまた、②を除けばすべて環境関連である。またグローバルリスクは個々で収束するものではなく、他のリスクと相互関連し、さらにリスクを加速・増大させる可能性も示されている。

3) 関連性の強いリスク組み合わせの上位5位は

- ①異常気象+気候変動の緩和・適応の失敗
- ②大規模なサイバー攻撃+重要な情報インフラとネットワークの故障
- ③高水準の構造的失業または不完全雇用+テクノロジーの進歩がもたらす悪影響



▲グローバルリスク報告書2020
（出所：世界経済フォーラムHP）

- ④大規模な生物多様性の喪失と生態系の崩壊+気候変動の緩和・適応策の失敗
- ⑤食料危機+異常気象

2. グローバルリスク報告書 ……短期リスク

2020年代に増大する短期リスクの上位5位は次の通り。

- ①経済対立（78.5%）
- ②国内政治の二極化（78.4%）
- ③異常熱波（77.1%）
- ④自然生態系の崩壊（76.2%）
- ⑤インフラ分野へのサイバー攻撃（76.1%）

短期リスクは地政学的な混乱と多国間協調主義の交代が、グローバル危機を増大させていると指摘している。

3. グローバルリスクを若年層（1980年以降に生まれた人）はどう見ているか

若年層の人々は、短期・長期のいずれの展望についても「環境リスク」をどの年代より高い位置付けにしている。90%近い人たちが「異常熱波」「生物多様性の喪失」と「人為的な汚染による健康被害」が2020年には、さらに悪化すると回答しており、2030年までに環境

リスクによる影響度はさらに壊滅的になると考えている。つまり若い世代ほど環境リスクに敏感になっていることが示されている。

4. 世界で最も持続可能性(サステナビリティ)のある企業100社(ランキング)

ダボス会議の恒例の目玉(焦点)は、サステナビリティの観点で企業を評価するランキングの発表である。

ランキングの評価方法は、まず売上10億米ドル以上の企業がノミネートされ、次の4つのスクリーニングで評価されている。

①サステナビリティの情報開示、②財務状況、③製品の 카테고리、④制裁、である。特に①のサステナビリティの開示情報は21項目に分類されている。エネルギー生産性、水の生産性、廃棄物生産性、VOC/NOX/SOX/PM生産性、面白い項目は税金の納付状況、CEO報酬と従業員の平均報酬の比率、離職率などである。②の財務状況の判断は、黒字であることは当然であるが、営業キャッシュフローが純利益を上回っていること、流動比率が高まっていること、総資産回転率が向上しているなどの項目である。そのトップ10企業を表に示す。

トップ100企業の地域別ランキングは、欧州と北米地域の企業が約8割を占め、アジア・太平洋地域は18社がランクイン、そのうち日本企業は6社であった。

アジア地域で100位までにランクインした企業名とその順位は次の通りである。

- 12位 積水化学工業(日本、化学)
- 25位 TSMC(台湾、半導体)
- 43位 新韓金融グループ(韓国、金融)
- 50位 アドバンテック(台湾、

表: Global Top 10

順位	企業名	国	業界
1	アーステッド	デンマーク	エネルギー
2	クリスチャン・ハンセン	デンマーク	バイオ
3	ネステ(Neste)	フィンランド	エネルギー
4	シスコシステムズ	米国	ハードウェア
5	オートデスク	米国	ソフトウェア
6	ノボザイムズ	デンマーク	化学
7	INGグループ	オランダ	銀行
8	エネル	イタリア	エネルギー
9	ブラジル銀行	ブラジル	金融
10	アルゴンクウインPUC	カナダ	電力

出所: Global 100 Most Sustainable Corporations in the World



▲グローバルリスクについてパネルディスカッション
(出所: 世界経済フォーラムHP)

ハードウェア)

- 63位 キャピタランド(シンガポール、不動産)
- 68位 武田薬品工業(日本、医薬品)
- 72位 コニカミノルタ(日本、電機)
- 80位 サムスンSDI(韓国、電機)
- 85位 BYD(中国、自動車)
- 86位 花王(日本、消費財)
- 89位 パナソニック(日本、電機)
- 92位 トヨタ自動車(日本、自動車)
- 95位 シンガポール・テレコム(シンガポール、通信)
- 97位 レノボ(中国、ハードウェア)

日本企業として積水化学工業は3年連続、しかも前年度89位から今回12位と急浮上、武田薬品工業は5年連続(前年度78位から10位浮上)、コニカミノルタは前年度96位から24位浮上、花王は同92位から6位浮上、トヨタは2年連

続(前年度95位で3位浮上)であった。

さいごに

ダボスで毎年開催される同総会は今年で50回目、各国政府高官や、億万長者、企業の経営者など3000人近くが出席するが、地球温暖化テーマは、これまでにないほど盛り上がりを見せ、環境危機がサイバー攻撃やテロなどの項目を押しつけて最大のグローバルリスクに浮上した。この報告書で指摘されているように、これからは複合リスク(あらゆる事象が相互関連しリスクを加速・増大させる)を考慮し行動しなくてはならない。水問題解決を考えている我々は、常に大きな視野に立ち、今後起こりうる様々なリスク対策を真剣に考えるべきであろう。

※ダボス会議の詳細は、世界経済フォーラムのホームページに(<https://www.weforum.org/>)